

## 所沢市立椿峰小学校

# あたたかな人間関係を築き、よりよく生きようとする児童の育成

～主体的に考え判断し、実践できる力をはぐくむ道徳の授業を通して～

## 1 研究概要

本校の児童は、素直で言われたことは責任をもって行うことができる反面、受け身の児童が多く人間関係作りもあまり上手ではない。自分の思いを伝えることを苦手とし、相手の思いを推し量ることができない児童も少なくない。

以上のような実態から、あたたかな人間関係を築くには、自分とは違う他者の考えを受け入れたり、多面的・多角的に捉えたりすることができるようになることが大切であると考えた。それが様々な学習や生活の場での学び合いの活性化につながると考え、研究主題の実践を道徳の授業を通して行うこととした。

### (1) 授業展開の工夫

#### ① 授業の流れの改善

「気付く⇒深める⇒つかむ⇒見つめる⇒あたためる」の5つの流れで授業を展開する。

ア 気付く：主題に対する興味・関心を高める。

資料への方向付け・価値への方向付け  
紙芝居、大型テレビ等

イ 深める：教材を通して道徳的価値の理解に向けて話し合う。

役割演技、動作化、気持ちメーター等



ウ つかむ：教材の道徳的価値は何かを話し合う。(価値理解)

エ 見つめる：道徳的価値を自分のこととしてとらえる。(自己理解)

オ あたためる：思いや考えをまとめる。

#### ② 授業隊形・話し合い

ア 児童同士がお互いに顔が見えるコの字の座席配置

イ 少人数グループでの交流



#### ③ 自分を見つめる時間の確保

「同じようにできたこと」「できなかったこと」「されたこと」について今までの自分を振り返る。  
・場面を提示し、記号であらわす。手を挙げる。  
・自分の言葉で書く。

### (2) 環境の整備

① 図書室・校内掲示の充実

② 「こころのまど」の掲示



## 2 研究成果

### (1) 授業改善の共通理解

道徳の授業を5つの流れで展開していくことを全教員で確認することができ、共通理解を図れたことで教師の意識改革がされた。それにより、道徳の授業に臆することなく取り組めるようになった。

また、児童も毎回の道徳の授業が同じような流れで行われることで、戸惑うことなく学習に向かうことができるようになった。

### (2) 価値理解と自己理解の充実

展開の前段の「道徳的価値の理解」の場面において交流活動を取り入れることで、道徳的価値を児童の言葉で表現することができるようになった。教師も主発問として、言葉を吟味して授業に臨んだ。

この話で大切だと思ったことは何でしょう。  
「働く」とはどういうことだと思いますか。  
決まりは何のためにあるのでしょうか。

それを踏まえた後段の「自己を見つめる」場面では、当初は何を書いてよいかわからずにいる児童が多くみられたが、回数を重ねることにより、自分自身の気持ちや行動を考える力がついたり、今後の生き方について考えたりできる児童が出てきた。

## 3 今後の課題

道徳的価値について児童に考えさせる場面と自己を振り返る場面を大切にして授業を展開すること、交流活動に継続して取り組み、児童同士の学び合いが円滑に行えるような学級経営、深まるような支援をしていくことに努めたい。